

「自然」守った住民パワー

札幌・円山の環状線建設



大幅な修正案が出された道道札幌環状線の円山わきの建設予定地

環状線は北一五五を起点に、元町、北郷、月寒、円山地区を通り北一八で国道を走り、月寒と交差するもので、総延長は二・六五キロ。市の都市計画の根幹に立脚し、現在までに全体のほぼ八割が完成している。

問題となった部分は、南一西一八から南九四一五にかけての約一キロ区間。市は前年までに約半分の区間を完成させた。

市は前年までに約半分の区間を完成させた。このため、市は計画の見直しを進め、四十九年度の第一次修正案に引き、今回

市、計画を大幅修正

車線縮小、緑地帯も設置

主要道札幌環状線の円山の東側山ろく部分の建設工事は「自然破壊につながる」という地元住民の反対運動で三年間にわたり中断されていたが、札幌市はこのほど、当初の六車線の計画を四車線に縮小し、最大幅緑地帯を設ける修正案を示し、住民側と折衝に入った。住民側は二千日の集会所市制にさらし、詳しい説明を求めて態度を決めるが、自然保護運動が建設設計案を大幅に変えたのは、札幌では初めて。今後の都市計画にも波及効果は大きい。

修正案は、六車線を四車線に縮小し、二車線の分で中央分離帯と歩道の側溝を設け、これを緑地帯にする。円山のすそ野を削るのを最小限に抑えるため、道路の山側と谷側に段差をつけ、山側の車道と歩道にも段差をつける。段差をつけるコンクリート擁壁にはソコソコを植える緑地帯をつくるなど

が内務。札幌市では四十六年に市道北一条一宮の大通りの山の手前、一宮の森交差点二・五が、騒音や排ガスを心配する住民運動で六車線の計画から四車線に縮小されたことがある。自然保護運動による計画の大規模な修正は例がない。

この修正案に対し「子供たちのために、円山母親連絡会を積極的に組織して運動を前向きにやる」と主張する円山住民の会(箱崎入・中野三三三ら)は、二千日の集会所市制に賛同を示したうえで、態度を決める」と断言している。